

駒工生1票の 大切さを学ぶ

3年向け選挙出前講座

駒ヶ根工業高校(駒ヶ根市)は29日、駒ヶ根市選挙管理委員会による「選挙出前講座」を同校で開いた。3年生を対象に生徒約110人が受講。同選管委員らを講師に選挙の意義や仕組み、投票の流れなどについて説明を聞き、1票

の大切さを学んだ。

同校は「18歳選挙権」が導入された2016年から同選管の出前講座を利用。社会科の「現代社会」の授業の一環で、主権者教育について学ん



ている。この日は同選管委員4人、市職員2人の計6人が講師として同校を訪れ、電気科、機械科、情報技術科の3グループごとに講義した。

「選挙権年齢の見直しは何年ぶり?」といったクイズ形式で講義は進み、選挙権拡大の経緯や、選挙の基本原則などについて学習したほか、模擬投票も体験した。同選管の澁谷光弘委員長(82)は「自分の意見を政治に反映させるために、まずは選挙に参加してほしい」と呼び掛けた。

講義を受けた電気科3年の堀川大暉さん(17)は「投票数が同じ場合はくじで決めるなど、初めて知ることが多かった。18歳になったら必ず選挙に参加したい」と話した。

(布袋宏之)

↑
駒ヶ根工業高校3年生を対象に行われた駒ヶ根市選挙管理委員の出前講座